

巻頭エッセイ

技術・技能の伝承を考える 「転識得智（てんしきとくち）」

岸田隆夫

東亜建設工業株式会社土木事業本部
執行役員 副本部長



はじめに：技術・技能の伝承を考える

今年度（2009年度）中に、団塊の世代を構成する最後の学年の人々が60歳を迎えます（筆者もその一人です）。我が国が高齢化社会へ急速に移行することが、我が身に照らして実感されます。社会が大きく変化するこの時期に取り組むべき重要な項目の一つとして、世代間での「技術・技能の伝承」があります。本稿では、作業船に関わる「伝承」を例として、筆者なりに考えてみたいと思います。

驚くほどの「船長」の技量

幸いなことに、筆者は社会に出て以来、関西国際空港（一期、二期）の空港島、阪神大震災後の港湾施設復旧などの大きなプロジェクト工事に、地盤技術者として、直接または間接的に携わることができました。発注者や同業者との真剣な技術討論は記憶に深く刻まれています。中でも感謝したいことは、大型作業船のリーダー（以下、船長と表記）から施工技術についてゆっくり話を伺う機会があったことです。ある時は、「サンドドレーンの神様」の船長と作業船で一晩中語り明かしました。また、「杭打ち名人」の船長の脇で丸2日間、杭打設の秘訣に関する“個人レッスン”を受けることができました。

いずれも普段は、「寡黙で近寄りづらい」雰囲気身をまとった船長たちですが、話し始めると、自分たちの仕事を極めて分かり易く説明してくれることにびっくりしました。一流の船長に見られた共通の特徴は、

- ①作業船の機械だけでなく、気象や地盤などに多くの技術・技能に関連する知識を持っていること。
- ②状況を的確に観察するとともに、起こりうるトラブルは何かなどを常によく考えていること。

③思考が柔軟でかつ論理的で、きちんと他人に説明できること。

④仕事に誇りを持ち、一緒に働く仲間のことを考え、教育をしていること。などです。

船長の話が分かり易いのは、ものごとの因果関係を冷静に判断して、論理的に他人に説明できるからだと気が付きました。上記④にも関係しますが、トイレの掃除に至るまで、チームプレーに配慮したOJTが実施されていました。施工に関する実務に留まらず、仕事に関わる全般に卓越した技量を有していることに驚かされました。

“転識得智”：知識ではなく智恵が重要

船長が多くの知識を持っているだけでなく、それらを実際の仕事の上で活かす智恵を、持ち合わせていたことが重要です。

筆者なりに解釈すれば、習得した知識や経験を、智恵のレベルまで転化して身に付けているため、初めて体験するトラブルにも即応できるのです。このことを“転識得智”と表現したいと思います。この言葉にいつ、どのように出会ったかは定かに覚えていませんが、技術や技能の伝承を考える上で大切な概念だと、10年程前から考えるようになりました。その後、浄土真宗大谷派の曾我量深師の著書の中で見出しましたので、元々は仏教修行の極意を表しているのかもしれませんが。

いずれにしても、知識を智恵に転ずるポイントは、前向きな姿勢、思考の習慣、論理的な説明能力、そして、良好な人間関係など、その人の普段の生活様式にあるようです。したがって、技術・技能の伝承も、日頃からリーダーがこうした生き様を見せて、後進が同様の生活習慣を身に付けて、智恵を会得することが、何よりも大切と思われます。